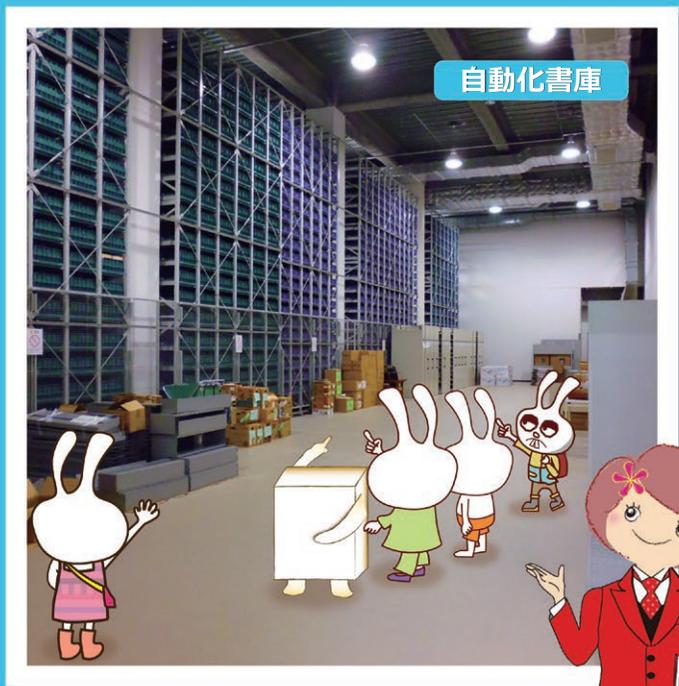
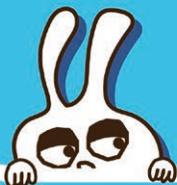


フリーペーパー ペッコ
PECCO



VOL.72
2025.8



発行 岩手県立図書館

日清戦争 明治27年-28年 1894-1895

1894年、朝鮮の支配権を巡り日本と清国(現中国)の間で日清戦争が起こります。これに勝利したことで日本は、欧米列強と並ぶ帝国主義国家へ仲間入りする足掛かりを得ます。

第一次世界大戦

大正3年-7年 1914-1918

1914年、ヨーロッパを主戦場に、第一次世界大戦が勃発しました。同盟国(ドイツ・オーストリア等)と協商国(イギリス・フランス・ロシア等)が戦い、中途から日本・アメリカ等が参戦し世界規模の戦争となりました。1918年のドイツ降伏で終結しますが、戦車や毒ガスなどの新兵器が投入され、約850万人が戦死しました。

日中戦争 昭和12年-20年 1937-1945

盧溝橋事件とは、1937年7月7日に中国北京郊外の盧溝橋で、日本軍と中国軍の間で発生した武力衝突事件です。これをきっかけに日中は全面戦争に突入、戦線は停滞し長期化しました。

日露戦争 明治37年-38年 1904-1905

1904年、朝鮮と満州(中国東北部)の支配を巡ってロシアとの間に日露戦争が勃発。苦しい戦いの末勝利した日本は、朝鮮での優越権・遼東半島の租借権・南樺太などを得て、アジアで唯一の帝国主義国として自立するに至りました。

満州事変 昭和6年-7年 1931-1932

1931年9月18日、日本軍(関東軍)が南満州鉄道の線路を爆破したことをきっかけに始まった、日本と中国の軍事衝突です。日本は満州の主要都市を占領し、翌年「満州国」建国を宣言しました。

太平洋戦争 昭和16年-20年 1941-1945

中国や東南アジアへ軍隊を進めた日本と、これに反対する米英などの対立が激化。1941年12月8日、日本はハワイの真珠湾を攻撃し太平洋戦争が始まりました。始めは優勢でしたが、1944年7月以降、本土全域がアメリカの爆撃機の空襲圏内となり、翌年4～6月の沖縄戦、8月の広島・長崎への原爆投下、ソ連の参戦を経て、ポツダム宣言を受託し降伏、終戦を迎えます。

岩手ゆかりの軍人たち

明治から昭和初期まで、陸海軍大臣や総理大臣を務める軍部高官を輩出しました。

	氏名	出身等	最終階級
陸軍	東條 英教	盛岡	陸軍中将
	多田 駿	宮古育ち	陸軍大将
	板垣 征四郎	現岩手町	陸軍大将・大臣
	長澤 賢二郎	盛岡	陸軍少将
海軍	斎藤 実	現奥州市	海軍大将・大臣 内閣総理大臣
	柄内 曾次郎	盛岡	海軍大将
	山屋 他人	盛岡	海軍大将
	原 敢二郎	盛岡	海軍中将
	八角 三郎	盛岡	海軍中将
	及川 古志郎	盛岡育ち	海軍大将・大臣



東條 英機

1884年～1948年

太平洋戦争開戦時
内閣総理大臣

父は東條英教。1940年に陸軍大臣、翌1941年に内閣総理大臣に就任。同年12月の御前会議で太平洋戦争開戦を決断。A級戦犯として刑死。

米内 光政

1880年～1948年

太平洋戦争終戦を実現

盛岡生まれ。海軍大将。海軍大臣。1940年内閣総理大臣に就任。1944年に海軍大臣に復帰。終戦工作に尽力。



企画展アーカイブ

2015年8月開催

戦争の時代と 岩手の人々

1945年8月15日。多くの尊い命が犠牲になった太平洋戦争の終結から、今年で80年の節目を迎えました。そこで今回は、過去に当館で開催した企画展『戦争の時代と岩手の人々』を紙面で再現。近代日本が経験した戦争の歴史を振り返るとともに、岩手の人々にとっての戦争にも触れ、平和の大切さについて考えます。

岩手の人々と戦争



国家総動員法

昭和13年公布 1938年

日中戦争の長期化に伴い、国を挙げて戦争を遂行するため、政府が議会の承認なしに人や物資を動員・調達できるという法律が公布され、生産設備・原材料・労働力配置・企業の改編廃止等々を遂行するための法的根拠が与えられていきます。

金属回収令

昭和16年公布 1941年

岩手でもさまざまな供出を余儀なくされました。

昭和18年
供出例

- ◆盛岡市繁華街のスズラン灯
- ◆県庁の時鐘
- ◆上の橋・下の橋擬宝珠



昭和19年
供出銅像

- ◆盛岡城跡公園の南部中尉
- ◆高松池畔の横川省三
- ◆奥州市水沢の後藤新平・斎藤実

戦災と終戦

昭和20年(1945)3月10日に盛岡駅前がB29による焼夷弾を受け、商店街と住宅約160戸が焼失し3人が死亡したのははじめ、戦争末期には県内各地も米軍機による空襲を受けました。釜石市は同年7月14日、8月9日の2回にわたり艦砲射撃を受け、製鉄所のほか、市街地も壊滅的な被害を受けました。空襲や機銃掃射による県内の被害総数は、被災戸数約6,218戸・死者728人以上とされています。

新渡戸稲造

～戦争回避に奔走した国際人～

文久2年-昭和8年
1862-1933



盛岡藩士 新渡戸十次郎の三男として盛岡に生まれる。札幌農学校、東京帝国大学を経てアメリカ・ドイツへ留学し、農学、経済学を学ぶ。第一次世界大戦後の1920年5月、国際連盟の設立に際し、教育者で『武士道』の著者として国際的に高名な人格が認められ、事務次長に就任。1929年からは太平洋問題調査会理事長として、国際間のかけ橋となる。しかし日本は1933年国際連盟を脱退。対日感情が悪化する厳しい国際情勢の中、カナダで開かれた第5回太平洋会議に出席した新渡戸は以下の演説を行った。

世界の人々の親密な触れ合いにより、いつの日か、ゆっくりとではあっても、激情ではなく理性が、自己の利益ではなく正義が、全世界の民族と国家のための仲裁人となる日が来ることを希望するのは、過ぎたる望みというものであろうか。

浅野七之助

～戦後の日本を救った国際ジャーナリスト～

明治27年-平成5年
1894-1993

1894年盛岡市新穀町(現南大通2丁目)に生まれる。当時内務大臣だった原敬の書生を3年務めた後、東京毎夕新聞社の特派員として、1917年に渡米。戦後、母国の惨状を知った浅野は1946年「日本難民救済会」を発足。在米日系人らに呼びかけて集めた食料品や衣類、薬品を日本に送り日本戦災難民救済運動を開始。これがのちに「ララ物資※」として発展。1987年5月16日には、「日系人への貢献、ララ物資の送付、日米親善への尽力」などの功績が認められ、サンフランシスコ市長より表彰され、その日が「サンフランシスコ市における浅野七之助デー」と制定された。



※ LARA (Licensed Agencies for Relief in Asia)

おすすめ新着郷土資料 【2025年4月-6月新着分】



岩手怪談 (竹書房怪談文庫)

平谷美樹・岡本美月 著／竹書房

岩手県在住の作家である平谷美樹と岡本美月が、自身の怪異体験談に加え、北上在住の怪談師(豆腐小僧亀)氏、友人の高橋政彦氏や知人の取材などをもとに綴った、岩手県各地の不思議で奇妙な怪談本です。岩手の自然や土地にまつわる怪談65話を収録しています。



幻告 (講談社文庫)

五十嵐律人 著／講談社

裁判所書記官として働く宇久井傑は、父が犯罪者であることを隠しながら過ごしていた。ある日、法廷で意識を失い目が覚めると、父の第1回公判期日が開かれた日にタイムリープしていた。父の冤罪を疑い、調査を進める傑ですが、果たして真実を突き止めることはできるのか。著者は、岩手県生まれ、『法廷遊戯』で第62回メフィスト賞を受賞しデビュー。



サーミランドの宮沢賢治

管啓次郎・小島敬太 著／白水社

『銀河鉄道の夜』の朗読劇を続けてきた詩人・管啓次郎と音楽家・小島敬太。『銀河鉄道の夜』が書かれてから100年となる今、2人の著者が賢治の「北」に対する思想を追いつめて最北の地フィンランド、サーミの人々の住む「サーミランド」へ。現地の生活や思想、文化に触れることができる紀行文です。



日食なつこ (改訂版)

日食なつこ 監修／ケイ・エム・ピー

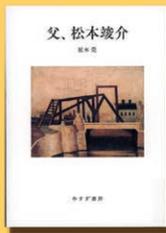
花巻市出身のピアノ弾き語りソロアーティスト、日食なつこ。ギターやベース、時にはドラムさえもピアノひとつで表現する独自の作曲スタイルや、歌詞の世界観が注目を集めています。本書は本人が監修したピアノ弾き語り譜で、「ヒューマン」から「水流のロック」「音楽のすゝめ」など、魅力満載の楽曲が全26曲収録されています。



逃亡者は北へ向かう

袖月裕子 著／新潮社

震災直後に2つの殺人を犯してしまった青年・真柴亮はある人物を探すため、北へ逃亡する。被災し家族を失いながらもそれを追う刑事の陣内康介。正反対の2人のそれぞれの視点から、被災した東北の地を舞台に描かれる逃亡劇です。クライムサスペンスでありながらも、震災の混乱の中での人々の人間模様が印象に残る作品です。



父、松本竣介

松本亮 著／みすず書房

松本竣介(1912-48)は、岩手の花巻・盛岡で育ち、東京で画家として活躍しました。若くして亡くなった彼の作品は、後に家族を含めた多くの人々の尽力によって広く知られるようになります。本書は竣介の次男・亮による、残された多くの資料や家族に伝わる思い出とともに画家松本竣介の生涯を綴った1冊です。